

# 多摩デブホ通信 第2号

NPO共同保存図書館・多摩

2007年4月29日発行

調布市深大寺北町一―三二―一八  
●depo\_tama@yahoo.co.jp  
●郵便振替 00170-8 - 610534  
●HP / [http://www.geocities.jp/depo\\_tama/index.html](http://www.geocities.jp/depo_tama/index.html)

「NPO共同保存図書館・多摩」設立一周年記念企画  
／ぜひ、ご参加を／

「NPO共同保存図書館・多摩」が設立され一年が経ちました。施設としての共同保存図書館は残念ながらまだ具体化していませんが、必要性の認識は着実に広まっています。この間、多くの方々から賛同をいただき、支援のアドバイスもいただきました。

マスコミでも取り上げられ、記事が朝日新聞や日本経済新聞に載り、最近4月19日には、NHKの「スタジオパーク」で『広がるか「共同保存図書館」運動』が全国放送さ

れたばかりです。

もう一つの動きが東京都市長会の動きです。「広域連携の勧め―多摩の魅力を高める18の連携―」の中で蔵書保存場所の共同設置が提案されています。これは多摩地区の行政組織でも共同保存図書館の必要性が認知されたことで、大いに取り組みの弾みになっています。

共同保存図書館の必要性をさらに知ってもらい、実現に向けた意識を盛り上げていきたいと考えます。その一環として設立一周年イベント「広げよう！共同保存図書館」を企画しました。パネルディスカッションでは、

先のNHK番組を企画し、放送の中で解説をされた扇谷勉さんにお越しいただき、メディア・アーカイヴの必要性や番組作成の苦労話をお聞きします。

また

国会図書館の関西館の設置準備に携わり、資料保存の必要性を国レベルで考えておられた千代正明さん

## 広げよう！ 共同保存図書館

―設立一周年記念・パネルディスカッション

には、共同保存図書館へのお考えや実現に向けた助言をい

ただきたいと思えます。

そして当NPO理事の清田義昭からは、出版業界の現状を踏まえながら共同保存図書館への関心・期待について触れていく予定です。

最後には、当NPOの恒例行事として「懇親会―ビア&ピーナッツ」を行います。パネリストの方々やNPO理事と懇親を深めていただく機会ですので、ふるってご参加ください。

2007年5月27日(日)  
午後1時から4時30分  
まで

場所：調布市市民プラザ  
あくろすあくろす・ホール  
(京王線国領駅北口前西友上)  
[http://www.chofu-across.jp/goanmai\\_tizu\\_frame.html](http://www.chofu-across.jp/goanmai_tizu_frame.html)  
(会場電話042-443-1220)

内容／NPO多摩デポ設立  
のこの一年を振り返って

●東京都市長会の動き

●東京都町村立図書館長協  
議会の動き

●パネルディスカッション

「広げよう！共同保存図書  
館」

◇パネリスト

扇谷勉氏（NHK解説委員）

千代正明氏（日本図書館協

会理事 元国立国会図

書館）

清田義昭（NPO共同保存

図書館・多摩理事 出版

ニュース社社長）

◇司会

斎藤誠一（NPO共同保存

図書館・多摩理事）

●懇談会（おなじみちよっぴ  
り、ピア&ピーナッツの会）

※参加費500円(当日徴収)

※事前申し込み、なしです。

直接会場にお越しください。



注目すべき東京都

市長会の動き・報告

理事長 座間直壯

平成18年11月東京都市  
長会は「広域連携の勧め」多  
摩の魅力を高める18の連携  
」を発表しました。

その巻頭言の最初の言葉は「自治体の広域連携ですぐ思いつくのが図書館の相互利用や消防の相互応援協定である。」とありました。

そして、18の連携事例の7番目に「多様な図書館連携」が掲げられ、三つの提案が示され、その中の一つが「……古くなった蔵書の共同保管の提案です。どの図書館もリクエストの少なくなった蔵書の保管に困っている現実がある。そこで、多摩全域をカバーする蔵書保管場所を共同設置することを提案する。」というものでした。

このことは、私たちが描いている共同保存図書館構想と全く一致するものであり、我々が多摩の市長会も図書館の現状に危機感を持ち、現状打開と更なる発展を期しての提言と考えられます。

早速、私と斎藤事務局長の二人で市長会事務局を尋ね、担当の三村企画政策室長にお会いして、これらの詳しい経緯と今後の進め方について伺いました。

三村室長からは、図書館の問題と同様に公文書館の共同設置も緊急性を要する課題であり、18番目の提言として「公文書館の共同設置」を掲げているが、図書館と公文書館を一緒に考えられないかという話も出てきました。

私と斎藤は思わず身を乗り出して「それは面白い発想であり素晴らしい考えではないか」と言ってしまうました。図書館と公文書館はそれぞれ機能が異なることは事実ですが、両施設では資料の整理や保存、自治体への資料提供など様々な部分で共通するノウハウが必要となる。全国に

先駆けて多摩地区で試行することも充分価値のある話ではないか、と話は盛り上りました。

このように、市長会は多摩地区の魅力を高めるための新たな施策として「広域連携の勧め」という積極的な提言を行っています。同時にこれら提言を実現させるための活動助成事業も創設され、調査・研究費や活動費が助成されることとなりました。

今後、市長会としては各自治体間の協議の進捗を見守り、出された提言が一つでも多く実現することを願っているということでした。

多摩地区の図書館長協議会も、これらの動きに対応して、協議を進めています。「共同利用図書館検討委員会」という名称で、8自治体の館長が月1回程度会合を持っています。

具体的な実現策への第一歩として、先に触れました市長会の調査・研究費や活動費の助成を得て計画を進めることにしています。コンサルタント業者や大学の研究機関への計画書設計委託を準備しつつあるようです。

一方、昨みなさまにご協力いただきました5万冊の処理事業のうち、武蔵野市の図書交流センターで保管する資料のデータ作成事業なども、検討することになる模様です。多摩の自治体が積極的に動かなければ進まない話なので、関係各位の尽力に期待すると同時に、我々も積極的な協力と行動を起こしていきたいと考えています。

## 私たちの運動が

### NHK番組で

### 全国放送される

「NPO共同保存図書館・多摩」の活動がNHKの番組で全国放送されました。

4月19日午後1時45分から放送された「スタジオパーク」の「暮らしの中のニュース解説」のコーナーで、タイトルは「広がるか『共同保存図書館』運動」でした。NHK解説委員の扇谷勉さんが映像とフリップを使いながら解説するもので、8分間という短い時間ですが「共同保存図書館」という新しい取り組みが全国で紹介された意義は大変に大きいと思います。内容は、東京都内の図書館の除籍の実態を説明した上で、

“図書館が頭を悩ます問題”として蔵書の廃棄問題を取り上げ、その解決策として、「NPO共同保存図書館・多摩」の活動が始まったことを紹介しました。

共同保存図書館のメリットとして利用率が落ちた資料でも捨てないで保存できること、収納スペースを節約できることとがあげられ、その具体的な行動として私たちのメンバーが東京都市町村立図書館長協議会の取り組みを支援して作業に入った西東京市と日野市での保存シール貼りの場面も放送されました。

特に、最終的な保存機能をもつ国立国会図書館の資料は利用に制約があるということとの対比で、私たちの共同保存図書館の役割が利用(貸出)のための資料保存であることが解説されており、運動の意

図する点をうまく表現してもらえたとお思います。最後に、行政体からの財政支援の問題や多摩地域の足並みを揃えるという課題はあるが、実現への期待は大きいと締めくくられました。

NHK解説委員の扇谷勉さんは映像資料のアーカイヴへの関心が高く、その関連で図書館の資料保存の取り組みにも興味を持ち、今回の取材に結びついたとのこと。今後、さまざまな場面でご支援をいただけるものと思います。これからの運動に弾みがつく番組でした。

日野市議会での図書館に関する議員質問の中で、共同保存図書館について取り上げられる――

平成19年の第1回市議会

定例会で、公明党の田原議員から「図書館を地域の情報拠点として活用しよう!」という、全16項目にのぼる質問がありました。

現在の図書館基本計画の策定状況や新中央図書館問題とともに、多摩地域での共同保存図書館設立の動きについて、さらに市内の企業の科学技術系雑誌を受入れることはできないかという質問でした。(議事録 以下参照)

<http://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnol/ib/doc/tosyokan/nkhonkeikaku/tosyokankihonkeikaku.htm>

「1月30日『公明新聞』には神奈川県立図書館が旧県立野庭高校の校舎で行っているデポジットライブラリーの記事が掲載されています」。

質問に答えて、教育委員会文化スポーツ担当参事からは、

日野市の図書館も共同保存図書館を検討している図書館長協議会の活動に積極的に関わっている旨の答弁がありました。

### NPO事務所 調布に引っ越しました

4月1日、事務所を移転しました。これまで置かせていただいていた立川市高松町のインドネシア雑貨店が撤退したことに伴う引越しです。

新住所は、調布市深大寺北町1丁目31番18号で、調布駅もしくは三鷹駅・吉祥寺駅からバス。都立調布北高校の近くです。アクセスは少し不便ですが、部屋も広く、郵便ポストも専用です。  
週1回木曜の午後、事務局江森・田中が交代で事務所に行く予定です。ただ、電話・

FAXは引いていませんので、連絡はこれまでどおり郵便かメールでお願いします。郵便物の確認が定期的には週1回なのでご不便もあるかと思いますが、ご容赦ください。

◇NPO多摩アポホームページを見てください!

ホームページ。未完成ですが動き出しています。

[http://www.geocities.jp/dep\\_o\\_tama/index.html](http://www.geocities.jp/dep_o_tama/index.html)

「NPO共同保存図書館・多摩」のサイト名でもヒット。

なおNPO「多摩デポ」ができるまでの経過については、三多摩図書館研究所のホームページをご覧ください。

<http://www.hinocatv.ne.jp/~jelhyg>

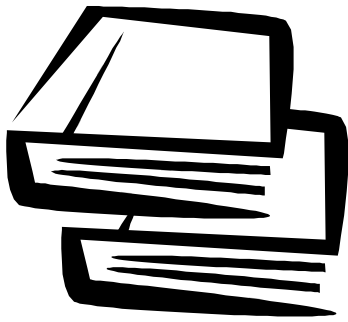
## ◇新年度の会費

### 納入のお願い◇

昨年5月に任意団体として発足し、まもなく1年になります。発足時には早期にNPO法人化の予定で、会計年度は決めておりませんでした。が、次年度に持ち越しになりました。そのためこの3月の理事会で任意団体としての会計年度を4月から3月までとすることに決定しました。(2006年度は2006年5月から2007年3月です。)

4月から新年度になりますので年会費の納入をお願いします。年会費5000円です。4月～9月入会の方(会員番号06-01-○○)には4月に、10月～3月入会の方(会員番号06-02-○○)には10月に郵便振替振込票をお送りします。

今年度からは加入者負担の用紙にしましたので払込時の手数料は不要ですが、実は、払込票挿入口のあるATMで送金していただくと、当会の負担が40円安くなります。できるだけATMで送金していただくよう、ご協力をお願いします。(会計 田中ヒロ)



「デポ通信」の印刷送付について

この『多摩デポ通信』を、毎号(紙に印刷して送る)と

決めたのは1月23日理事会。経費を考えメール版だけ発行でもいいか、との意見も聞こえ始めていたところでした。

『通信』は公式記録のひとつであり広報媒体としても重視すべき、会員各位へ封筒で届く定期便も欲しい、などの声が優勢になった次第です。

共同「保存」図書館建設運動らしい採決、というほどではないのかもしれませんが。

(平山)

### ※楽しい行事の紹介です

毎年、数万冊の市民の寄付の図書を集め、千人規模の参加。数十万円を売り上げ、収益から市立図書館へ寄付も行っている小平図書館友の会古本市。

### 小平図書館友の会第9回

## チャリティ古本市

### ●日時

：5月19日(土)

午前10時～午後5時

：5月20日(日)

午前10時～午後3時

### ●場所

：小平市中央公民館

1階ギャラリー

西武多摩湖線青梅街道駅

下車、国分寺方面へ徒歩5分

(小平市立中央図書館

入り口の隣です)

※本の寄付をしていただく日

5月12日(土)、13日(日)

午後1時～4時

小平市中央図書館裏手、

職員通用口を入って左

館外奉仕室の内へどうぞ

※本を寄付してくださった方

には、古本市当日使える

無料券(3冊分)を進呈。

会場で会いましょう!!

コンサベーションから

更に、プリザベーションに

進もう——

日本図書館協会

資料保存委員会委員

真野節雄

現在の「図書館法」が1950年に成立してから57年。図書館が〈必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設〉だということは、すっかり定着したかに見えます。ところが、高度成長期に出

版点数が急増し、予測を遙かに上回る速さで書架から本が溢れる事態が生まれ、コンピュータの普及が進んで自ら世界に向けて情報発信することが日常的になるにつれ、旧来の紙等を利用した印刷物の保存からデジタルデータの保存まで、人々の知的・文化的遺産の保存対象件数が爆発的に増え、図書館で「保存すること」の中味が次第にあやしくなってきました。

日本図書館協会資料保存委員会では、酸性紙問題を機に、コンサベーション(現状保存)及び修復を中心とした「資料保存」について研究・技術の普及を進めてきましたが、情勢を踏まえて昨年新たに「保存管理チーム」を発足させました。

製本・補修、予防的保存、維持管理、マイクロ化・電子

化、環境整備、災害対策、利用者教育・職員教育、収集方針・廃棄方針との連携、利用者サービスとの関連、図書館協力などを包括した責務に、図書館が統合的、体系的、計画的に取り組むことが重要と考えたからです。図書館サービス基盤の適切な確保のために、蔵書の保存についての考え方を明確にすることが求められています。

日本の図書館の普及に東京・多摩地域の図書館が果たした役割は大きく、「共同保存図書館」設置への動きには注目すべきものがあります。

この秋に東京で開催が決まっている全国図書館大会での「NPO共同保存図書館・多摩」の報告に期待しています。

※プリザベーション(保存のための予防的措置)

●修復、プリザベーション、コンサベーションの定義は、<http://www.jia.or.jp/hozon/hozonkanri/teigi.pdf> 参照。

★有川浩の話題の小説「図書館戦争」シリーズはもつ読まれましたか？

★その女主人公の喜怒哀楽と冒険の舞台となる武蔵野市図書館の地下には、なんと巨大なデポジットライブラリーがある設定になっています。

★これまで「図書館映画」も「図書館小説」もいろいろあり、作品の出来はいろいろ。しかしデポジットライブラリーが登場する小説は初めてではないでしょうか。この有川の小説は、図書館屋の行動と気分をつましく掬い取ってくれているように思います。ヒロさん、もつデポを描いて。

年のせいだろうか。忘れ去っている過去の出来る出来事を、ふとしたきっかけから思い出すことがある。「本を捨てるな！」の文字は、私が働いていた図書館での「アンネの部屋」事件を思い出させてくれた。

一八歳人口が1992年のピークを過ぎ、大学入学者の数が年々減りはじめた地方の私立大学の図書館に私は勤務していた。そんな中、経営体質改善のため、支出額が突出して高い図書館には元銀行員が図書館事務長として配属されてきたのである。カウンタ―設備の改善、事務処理の簡略化、年休取得の公平化などが次々とすすめられて行き、人にとつての環境は改善されるどころもあった。

が、資料の収集と保管に関

しては、暗黒時代に突入した。とりわけ、寄贈される大学紀要が「我慢のならない存在」と評価されてしまった。紀要のため郵便物が増える、受入の手間がかかる、保管場所がない、めったに利用されない……よって、切り捨てるべきであると言う。まずは、

## 投稿・ アンネの部屋

(会員・匿名希望)

「新しく届く紀要はすべて廃棄」との方針が言い渡された。「闘え！」と言われるかもしれないが、小さな私立大学では「いやなら辞める！」で

終わってしまう。

さて、ここからレジスタンスのはじまりである。幸いにも紀要に関しては私と同僚のMさんだけの担当であるから、すぐに対処できた。

図書館のすぐ傍に、階段下の空間を利用した物置があり、その構造から、掃除道具入れとして入口付近しか使われていなかった。奥になるほど天井は低いものの、紀要をとりあえず隠しておくには充分だ。他の人がいない時間帯を狙って、新着の紀要を運び続けた。少なくとも市のゴミ収集日に出すことだけは避けねばならない。何回か利用の請求があったときは、腰をまげて該当する号を探したこともあったが、生き続けた。配架コードは、「アンネの部屋」。考えることなくネーミングして、苦笑した。

それから半年ほどだったか、ちようどアンネの部屋も満杯になってきたころ、事務長が異動となった。今度は、大学院から論文指導に役立つから、他大学の紀要を利用したいと言つてこれら、大学紀要たちは、アンネの部屋から解放されたのである。廃棄していたら逆に信頼を失うところでもあった。

確かに、アンネの部屋は、持続可能な方法ではない。しかし、時間を引き延ばすことの価値はあった。アンネの部屋と重なる思いもあって、NPO共同保存図書館・多摩の活動を応援していきたい。  
**随時募集します／保存／共同  
／インスパイアする体験想い**

## NPO 多摩デポ ・ この一年

- 2006年5月 ・任意団体として「NPO 共同保存図書館・多摩」発足  
 ・NPO事務所を立川市高松町 2-20-2 に置く
- 6月 ・神奈川県立川崎図書館デポジットライブラリー (外国科学技術雑誌) 見学
- 8月 ・呼びかけ人 26 人決定 入会・賛同お願い発送
- 10月 ・『出版ニュース』 10 月中旬号 津野海太郎理事「本を捨てるな！」執筆  
 ・館長会の保存指定資料シール貼りボランティア 西東京市図書館で作業
- 11月 ・朝日新聞記者から取材  
 ・日本経済新聞記者から取材  
 ・『朝日新聞』 24 日夕刊 7 面 「多摩に共同保存図書館を」掲載
- 12月 ・「NPO共同保存図書館・多摩 を肴に大いに語ろう！」(対話・交流集会)開催  
 ・呼びかけ人 29 人に  
 ・『日本経済新聞』 11 日夕刊 20 面 「共同保存図書館動き出す」掲載  
 ・保存指定資料シール貼りボランティア 日野市立図書館
- 2007年2月 ・NHK解説委員 扇谷勉氏取材
- 4月 ・事務所を調布市深大寺北町 1-31-18 に移転  
 ・19 日、NHK スタジオパーク 暮らしの中のニュース解説で  
 “広がるか「共同保存図書館」運動” 放映  
 ——3 月末現在、NPO多摩デポ個人会員数 131名、団体会員数 2団体。

## 2006 年度会計報告(06 年 5 月 17 日~07 年 3 月 31 日) NPO 共同保存図書館・多摩

収 入		支 出	
会費(133 口)	665,000	事務所費(事務機器使用料含)	275,520
寄付	1,294,792	事業費(集会, ボランティア交通費, 保険)	79,736
<寄付内訳>		会議費(理事会会場費)	31,000
個人 91 件:529,052 円		通信費(リーフレット・会報送付等)	73,562
大口 2 件:550,000 円		印刷費	10,115
その他 :215,740 円		消耗品費	40,602
事業収入	54,371	雑費	6,765
収入合計	2,014,163	支出合計	517,300
		差引残高	1,496,863
現金	76,143		
郵便振替口座	1,420,720		
未払金	0		
借入金	0		

2007 年 4 月 19 日 会計 田中ヒロ